



MAFF
Ministry of Agriculture,
Forestry and Fisheries
農林水産省

日本の食・農業・農村の魅力を発信



近畿農政局長

志知 雄一

2026年2月26日



1 大阪・関西万博での取組

- 近畿農政局では、大阪・関西万博の「食と暮らしの未来ウィーク（2025年6月5～16日）」に農林水産省が国税庁と文化庁と協力し開催したイベント「RELAY THE FOOD～未来につなぐ食と風土～」に関西 食の「わ」プロジェクトが出展し、日本の食・食文化の魅力を発信
- 大阪・関西万博を契機に関西の農山漁村に宿泊し郷土料理などを楽しむ旅行への訪日外国人の誘客を推進するため、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会が開設した観光ポータルサイトへのツアー登録を後押し

関西 食の「わ」プロジェクト

～祭 MATSURI～



～Sweets for Life～



観光ポータルサイトへのツアー登録の例

大和・宇陀のE-bikeツアーと古民家ステイで
持続可能なライフスタイルを体感



2 農林水産物・食品の輸出拡大

- 農林水産業・食品産業の「海外から稼ぐ力」を強化するため、農林水産物・食品の輸出拡大を図るとともに、食品産業の海外展開、インバウンドによる食関連消費の拡大を推進
- 近畿農政局管内の港・空港からの農林水産物・食品の輸出額は4,528億円（2025年）で、加工食品（日本酒、醤油等）45%が最も多く、続いて水産物（調製品を含む）が20%、畜産品（牛肉等）が9%を占め、米等の穀物、果樹・野菜（いちご、ぶどう等）、その他農産物（緑茶、花き等）を輸出

関西地域の輸出農林水産物・食品



牛肉（滋賀、京都、兵庫）



お茶（滋賀、京都、大阪、奈良）



米（滋賀、兵庫）



そうめん（兵庫、奈良）

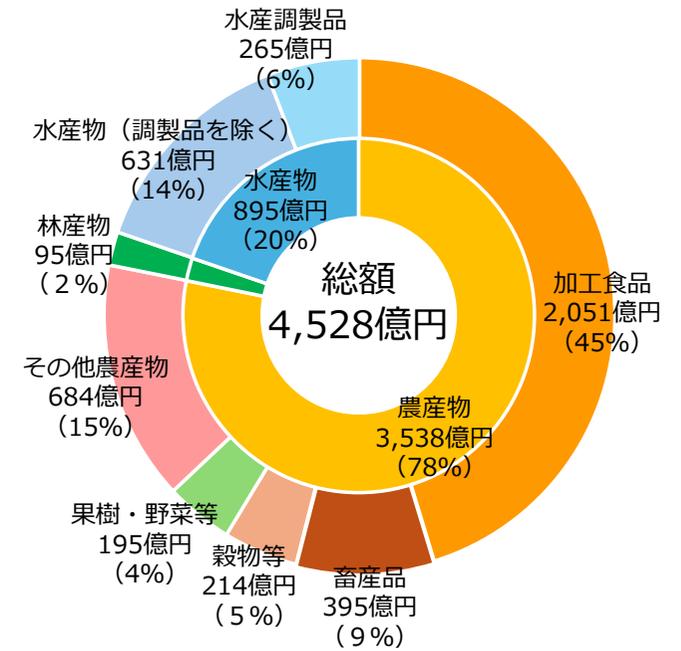


日本酒（滋賀、京都、兵庫
奈良、和歌山）



桃（和歌山）

近畿農政局管内の港・空港からの品目別輸出額（2025年）

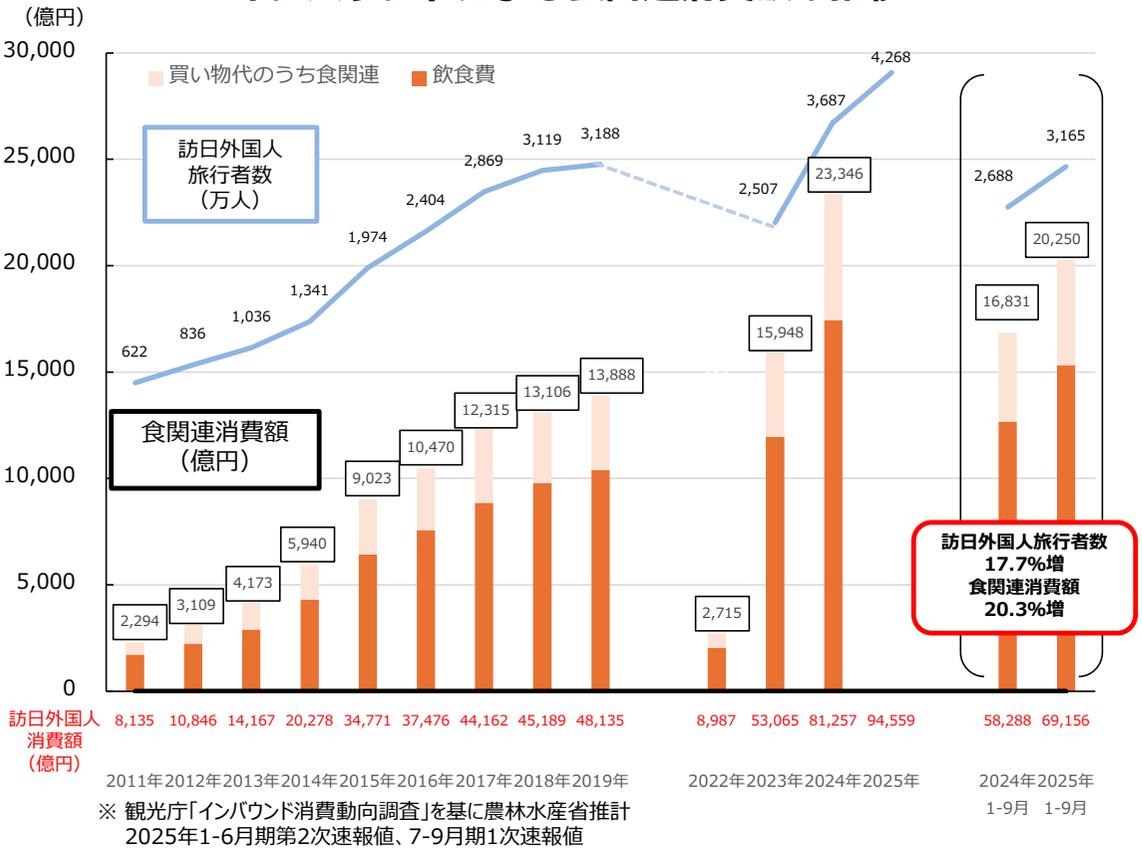


※ 財務省「貿易統計」を基に近畿農政局作成

3 インバウンドによる食関連消費の拡大

- 2025年の訪日外国人旅行者数は4,268万人（前年比15.8%増）、訪日外国人旅行消費額は9兆4,559億円（前年比16.4%増）となり、ともに過去最高を更新
- 2025年1-9月の食関連消費額は、2兆250億円で対前年同期比20.3%増加
- 訪日外国人旅行者には、鉄板焼やすき焼き等の肉料理、伝統的な日本料理、ラーメン等の食が人気

インバウンドによる食関連消費額の推移



訪日外国人に人気の主な関西の食



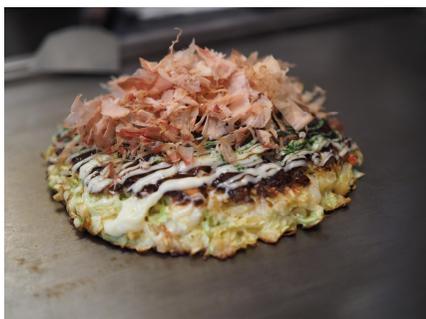
すき焼き (和牛)



抹茶スイーツ



懐石料理



お好み焼き

4 関西の農泊地域、SAVOR JAPAN

- 「農泊」は、農山漁村ならではの地域資源を活用した様々な観光コンテンツを提供し、国内外の観光客を地方に呼び込みつつ長時間の滞在や消費を促すものであり、地域の所得向上や雇用の創出に寄与。関西で農泊に取り組んでいるのは59地域（滋賀県7、京都府13、大阪府5、兵庫県11、奈良県14、和歌山県9）
- 「SAVOR JAPAN」は、地域の食と、それを生み出す農林水産業を核として、訪日外国人の誘致を図る地域の取組を認定する制度で、関西で認定されているのは6地域（京都府3、兵庫県1、奈良県1、和歌山県1）

農泊地域の例：京都府南丹市美山地区

南丹市美山地区の「かやぶきの里 北集落」において、登録有形文化財の茅葺き宿泊施設を活用し、地域の食材を使用するなど、付加価値の高いサービスを提供



かやぶきの里 北集落



囲炉裏鍋



SAVOR JAPANの例：兵庫県宝塚市

宝塚市の北部地域において、丹波山地の恵みである「ぼたん鍋」の食や米などの農産物収穫体験を提供



ぼたん鍋



米の収穫体験

SAVOR JAPAN
推進協議会サイト



5 関西の世界農業遺産

- 世界農業遺産とは世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域（農林水産業システム）を国際連合食糧農業機関（FAO）が認定する制度
- 認定数は世界で29ヶ国104地域、日本17地域のうち関西4地域（滋賀県1、兵庫県1、和歌山県2）

森・里・湖（うみ）に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム （滋賀県）



水田営農との深い関わりの中で発展してきた伝統的な漁業がシステムの中心“里湖(さとうみ)”とも呼ばれる循環型システムで、千年の歴史を有する定置網（エリ）を用いた伝統的な待ち受け型漁業や独特の食文化を継承

みなべ・田辺の梅システム （和歌山県）



養分に乏しい斜面の梅林周辺に薪炭林を残し、水源かん養や崩落を防止、薪炭林を活用した紀州備長炭の生産と、ミツバチを受粉に利用した梅栽培

人と牛が共生する美方地域の伝統的但馬牛飼育システム （兵庫県）



全国に先駆けて牛籍簿を整備し、地域内に限定した和牛改良を行い、独自の遺伝資源を保全

但馬牛の飼養は、地域の草原や棚田の維持、農村文化の継承にも貢献

有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム （和歌山県）



400年以上の歳月をかけて石積み階段園を築き上げ、地域の取り組みによりみかん栽培が生計の手段へと発展

栽培技術、貯蔵技術、伝統行事などのみかん栽培文化を継承

6 2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）

- 2027年国際園芸博覧会（正式略称：GREEN×EXPO 2027）は、神奈川県横浜市で2027年3月19日～9月26日に花や緑、農や食、環境等をテーマに開催される、SDGsの達成やこれからの自然と人・社会との持続可能性を追求し世界と共有する場を目指す博覧会
- 農林水産省では、我が国の花きや園芸文化、最先端の技術や食の魅力の発信を通じて、国産花きをはじめとする農林水産業・食品産業の活性化を図るため、日本国政府出展（屋内展示）の準備、各国への参加招請や企業参画、機運醸成の取組を実施中

2027年国際園芸博覧会 500 日前を契機として、次世代を担う小中学生が親子で楽しみながら園芸・農の魅力を経験できるイベントを開催

農林水産省有志職員により推進活動チーム「まふすぽ」の取組として、農林水産省のGREEN×EXPO 2027公式Xを開設し、投稿

